東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー・テーマ

ロータリーの未来は
あなたの手の中に

Vol.43　第2091回例会　2009.9.3

今年度会長テーマ　「誠心誠意、和をもって」“事にあたろう”

■司会：石山例会運営委員

■点鐘：枚山会長

■国歌：「君が代」
合唱：ロータリーソング
「奉仕の理想」

◆ソングリーダー：
村田会員

■お客様紹介：神崎パスト会長

◆ゲスト：野崎将嗣様

■会長報告　枚山会長

日照時間

日照時間は、家計消費に影響を与えます。推計では7月の日照不足で家計の消費は昨年に比べ1000億円強減ったようです。減少した費目は、レジャー、交通費、アルコール飲料など。日照不足は農産物の生育にかかわります。作柄の悪化に繋がり少々価格の上昇に繋がります。消費者は高いものには手を出さない。日本政策金融公庫の消費者動向調査によると、中国製冷凍餃子事件以降高まっていた「食の安全志向」が「価格重視」に転じています。食品メーカーや流通業者の努力で「食の安全への不安感が沈静化した」ことも原因の一つではあるが、安値志向が強まっているのも事実だろう。安全、健康、品質、価格、対立するこれらのキーワードを出きる限り満足させようと生まれたのがプライベートブランド（ＰＢ）商品です。政策金融公庫は食品の（ＰＢ）商品についても調査いたしました。消費者は確実にＰＢ商品を支持しています。価格は安く、安全性、おいしさ、信頼感においてメーカー品との差は無いと考えています。また国産原料の使用などを求めていて「安ければ何でもいい」わけではありません。東日本や西日本ではこのところ日照が戻っています。北日本は荒れ模様だし、先行きは安心できないが、晴れた日には大手量販店のＰＢ商品、一缶100円の第3のビールに、つい手が伸びてしまいます。

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／中丸　繁男　野村　高章
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500

■幹事報告　　高橋幹事

■ガバナー事務所：
義援金のお願いについて
①兵庫県西･北部豪雨災害義援金
②台湾台風災害義援金(会員一人あたり100円程度)
振込み締切日　9月18日(金)

■東京福生ロータリークラブ：
多摩分区ゴルフ大会ゴルフ場変更のお知らせ
2009年10月19日(月)
立川国際CC→東京バーディクラブ

■東京福生中央ロータリークラブ：
卓話のお願いについて
当クラブ野澤秀夫会員あて
2009年10月21日(水)
於　幸楽園

■ガバナー事務所：
ロータリー囲碁同好会
「第8回ロータリー全国囲碁大会」開催のお知らせ
2009年11月14日(土)　10:00開会式
於　日本棋院会館

■ロータリー情報委員会：
(在京)クラブロータリー情報委員長会の案内について
2009年9月29日(火)　15:00～18:00
於　日本橋倶楽部４Ｆ

■回覧：
「友」インターネット速報　No.396
バギオだより

■出席報告　　相羽例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
38	28	1	9	73.53

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：8名

■前々回出席率メークアップ修正後：76.47%

■前々会メークアップ者：
樺澤会員：東京城北ＲＣ
金子会員：田無けやきＲＣ
町田会員：清瀬ＲＣ
目時会員：福生中央ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　　高橋クラブ管理委員

■ご結婚祝月：
野崎(一)会員

■会員誕生祝月：
小町会員

■令夫人誕生祝月：
漆原会員
高橋(徹)会員

◆木下会員：長い間休みました。胃の手術をしまして又長生きが出来ますと先生が申しています。
◆匿名希望：民主党大勝利。併せて竹田さん当選おめでとうございます。自民党にとっては良いお灸となったことでしょう。自民党も生まれ変わり今後は二

大政党としてお互い緊張感を持ち政権を交代して下さい。期待しています。

◆樺澤会員：不整脈が出ましたので心臓を覗いてみました。おかげ様で元気になりました。

◆枕山会長、高橋幹事：
甲子園球児、野崎将嗣様、本日は卓話の講師ありがとうございます。同じ地元の人間として最高の喜びです。東村山市全体の誇りです。ありがとうございます。

◆隅屋会員：家内のゴルフ参加の写真頂きました。ありがとうございます。

◆嶋田会員：野崎将嗣さん卓話ありがとうございます。仕事も頑張って下さい。

本日のニコニコ合計：　37,000円
累　　計　　：365,000円

■委員長報告

■嶋田会員

西口再開発「てんしゃばフェスタ」寄付のお礼

皆様大変お世話になりました。お蔭様で114,000円という多額の寄付が集まり有難うございました。9月27日にフェスタが実施されますが、色々と催し物もありますので皆様是非ご参加下さい。又、本日卓話をして頂く野崎さんは、私がＪＡ東京みらいを昨年6月に退任する前に採用面接をさせてもらいました。現在清瀬支店で活躍されていると聞いていますが、これからも益々地域のために頑張ってくれると思います。どうか卓話共々宜しくお願いします。

■卓話

■卓話者紹介：高橋幹事

本日卓話をお願いしました野崎将嗣さんをご紹介します。
野崎さんは昭和59年10月5日生まれの24歳、三人兄弟の末っ子として久米川町5丁目の野崎サイクルというバイク店を経営する家に生まれました。久米川東小、東村山二中、日大三高、日本大学へと進まれました。日大三高時代には1年の秋からレギュラーとして、2年・3年で甲子園に合計3回出場し2年の時の夏の大会で優勝、3年の時には主将として春の選抜大会に出場しましたが、残念ながら夏の大会には出場が叶わず、夏の甲子園は皆で優勝旗を返しに行こうということでしたが、一人で優勝旗を返しに行くという経験をされています。
今日は甲子園児の青春というテーマで卓話をお願いしました。よろしくお願いいたします。

■卓話者：
元日大三高野球部主将
野崎将嗣様

ただ今ご紹介に預かりました野崎将嗣です。自分はあまりこのような席で話したことが無いので今日はありのままをお話したいと思います。自分は中学生時代はやんちゃで、親にそんな事では高校に行けないと叱られた事もありましたが、野球をやっていた関係で当時から甲子園の常連校で有名な日大三高に進学することが出来ました。

1年生の時、2・3年生との練習に参加させて頂いたときには、上級生は体も大きく自分はこの学校で野球をやって行けないと思いました。そう思い自宅に帰った時に、父親にあの学校は練習もすごいし体も皆大きいし自分には勤まらないと言ったところ、自分でやれることだけはやってこいと励まされ、自分でやれることだけはやろうと心に誓いました。自分に勝たなければ他人には勝てないと思い、練習をここで止めようと言う所でもう一つやっておけば他人より上手くなると自分に言い聞かせながら練習してきました。

1年生の夏までは自宅から通っていましたが、夏すぎからは学校の寮に入ることになりあの時ほど、家に帰りたかったり、寂しかったり、親の作ったご飯を食べたかったりと親の暖かさを感じたことはありませんでした。

自分は1年生のときから試合に出たい。アルプス席での応援は嫌だと思っていましたので、当時の選手層は大変厚かったのですが、どこかポジションを取って試合に出るんだと思い、皆が寝た後にバットを振っていましたし、皆が起きる前から練習していました。今考えると当時が一番努力した時かなと思いますし、人一倍練習したと思います。自分ひとりでやっていたので誰も見ていないと思っていたら、後で聞かされましたが監督・コ

ーチが見ていて「あいつ努力しているな」と評価してくれていたそうです。
　そのおかげで1年生の夏過ぎから少しずつ試合に出られるようになって来た矢先にケガをして試合に出れなくなりました。その時も体を強くしなくてはボールも飛ばないと考え、ケガをしていても出来るウエィトトレーニングや素振りをして体を作っていました。
　1年生の秋の東京都大会で2番サードというポジションのレギュラーを取ることが出来ました。この大会で優勝し翌年春の選抜甲子園大会に出場しました。
　甲子園に出ると周りの見る目も変わり、少々天狗になっていた感もありましたが、そんな時監督に叱られ又練習練習の日々でした。もう一度甲子園に行き、3年生に記憶に残る高校野球生活をさせてあげたいとの思いから頑張り、夏の東京都大会で優勝することが出来、その甲子園大会でも優勝という栄誉を勝ち取ることが出来ました。当時は自分は2年生でしたのでまた来年もここに戻ってこなくてはとの思いがあり、その後プレッシャーに圧倒されるようになりました。
　新チームになりキャプテンになって感じたのは優勝した時のチームと異なり新チームの実力やまとまりが劣り、キャプテンとしての重圧に押しつぶされそうになりました。キャプテンを何度も辞めようかとも思いました。でもチームの仲間が支えとなって何とか一つにまとまろうとそれぞれが努力し、「皆で優勝旗を返しに行こう」を合言葉にまとまれるようになりました。幸い春の東京都大会で優勝することが出来て春の選抜甲子園大会に出場することが出来ました。
　しかし1回戦で報徳学園に2対3で敗れ、まだまだ自分たちの実力では駄目だと感じました。どうしたら強くなれるのかが解らなく悩んでいたら、監督から練習はうそをつかない、練習した者だけが強くなれる。又、1球1球を練習といえども大切にしろという指導を受け実践しました。しかし3年生になり皆で優勝旗を甲子園に返しに行くという合言葉が次第に逆のプレッシャーになり夏の東京都大会で準決勝で日大鶴が丘高校に敗退してしまいました。その結果一人で優勝旗を返還しに行くことになってしまい、高校生活で3回甲子園に出場しましたが最後が一番悔いが残る終わり方となってしまいました。
　高校生活の3年間は何があっても諦めないということを学び、自分が一番成長出来た時期だったと今感じています。またそれには監督という存在が大きかったと思います。普段はグランドに出ると少しでも失敗すると殴られるような大変怖い存在でしたが、一歩でもグランドを離れると良き親父のような存在でどんなことでも悩んでいると相談に乗って下さり、いい監督の下で3年間過ごせたと思います。

それでは次は質疑応答の時間とさせて頂きます。

質問：1年、2年とどこを守り打順は何番だったのか詳しく教えて下さい？
回答：1～2年は2番でサード、3年では主将で1番サードでした。

質問：打率はどのくらいですか？
回答：甲子園3回出場で11試合を経験し通算打率は4割です。

質問：自分も陸上で学生時代代表選手になり同じような経験をしていますが100Mは何秒くらいで走りますか？
回答：100Mは計ったことはないですが50Mは高校時代約6秒です。

質問：寮に入っていて親の作った食事が食べたいという話がありましたがどの位の頻度で家に帰れましたか？
回答：大会に入ってしまうと全く帰れませんが冬は月に一度程度帰れました。

質問：練習時間はどの位ですか？
回答：学校の授業が13:00位に終了しすぐ練習を開始し21:00ごろまで。その後夕食をとり24:00位まで各自自主練習をしていました。

質問：強くなる為には上級生からのしごき等があったと思いますが、そのような場に身を置いてどう感じましたか？
回答：今社会人として何を言われても我慢できるというのはその様な経験をしているからだと思いますし、親には私学で高い月謝を払ってもらっていたので感謝し辞めるとは言えませんでした。

質問：プロ・ノンプロに行く気はなかったですか？
回答：高校生の時は目標にしていましたが、1年先輩の人が4人プロに進みましたが自分と比較すると自分は体も小さいしプロは無理だと諦めました。

質問：一番記憶に残る試合は？
回答：2001年に甲子園で優勝した時の準決勝の試合です。あの松坂大輔が卒業した名門横浜高校との戦いでサヨナラ勝ちした試合です。

■エール：高橋幹事

■点鐘：枚山会長